

201124013B

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV検査相談体制の充実と 活用に関する研究

総合研究報告書
(平成21~23年度)

研究代表者

加藤真吾

(慶應義塾大学医学部 微生物学・免疫学教室)

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV 検査相談体制の充実と活用に関する研究

総合研究報告書

(平成21～23年度)

研究代表者

加藤 真吾

(慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室)

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(研究代表者・研究分担者) 平成23年度

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
加藤 真吾	慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室	専任講師	160-8582	新宿区信濃町35	03-3353-1211 (61230)	03-5361-7658	skato@sc.itc.keio.ac.jp
井戸田一朗	しらかば診療所	院長	162-0065	東京都新宿区住吉町8-28 B・STEPビル2F	03-5919-3127	03-5919-3137	itoda@shirakaba-clinic.jp
今井 光信	田園調布学園大学 人間福祉学部	教授	215-8542	神奈川県川崎市 麻生区東百合丘3-4-1	044-966-6800	044-955-4345	imaim@d2.dion.ne.jp
上木 隆人	東京都南新宿検査・相談室	室長	151-0053	渋谷区代々木2-7-8 東京南新宿ビルディング3F	03-3377-8122	03-3377-0821	hiv-test@aurora.ocn.ne.jp
川畑 拓也	大阪府立公衆衛生研究所 感染症部ウイルス課	主任研究員	537-0025	大阪市東成区中道1-3-69	06-6972-1321 (375)	06-6972-2393	kawahata@iph.pref.osaka.jp
木村 和子	金沢大学医薬保健研究域薬学系 国際保健薬学研究室	教授	920-1192	金沢市角間町 自然科学本館	076-234-4402	076-234-4402	kimurak@p.kanazawa-u.ac.jp
小島 弘敬	東京都南新宿検査・相談室	室長	151-0053	渋谷区代々木2-7-8 東京南新宿ビルディング3F	03-3377-8122	03-3377-0821	hiv-test@aurora.ocn.ne.jp
近藤真規子	神奈川県衛生研究所 微生物部	主任研究員	253-0087	茅ヶ崎市下町屋1-3-1	0467-83-4400	0467-83-4457	kondo.dvqy@pref.kanagawa.jp
貞升 健志	東京都健康安全研究センター 微生物部	専門副参事	169-0073	新宿区百人町3-24-1	03-3363-3231	03-3363-3263	Kenji_Sadamasu@member.metro.tokyo.jp
佐野 貴子	神奈川県衛生研究所 微生物部	主任研究員	253-0087	茅ヶ崎市下町屋1-3-1	0467-83-4400	0467-83-4457	takawoo@hotmail.com
杉浦 互	(独)国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター	部長	461-0001	名古屋市中区三の丸4-1-1	052-952-1111	052-951-0664	wsugiura@nih.go.jp
武部 豊	国立感染症研究所 エイズ研究センター第2室	室長	162-8640	新宿区戸山1-23-1	03-5285-1111 (2537)	03-5285-1258	takebe@nih.go.jp
玉城 英彦	北海道大学大学院医学研究科 国際保健医学分野	教授	060-8638	札幌市北区北15条西7丁目	011-706-5051	011-706-7374	tamashiro@med.hokudai.ac.jp
中瀬 克己	岡山市保健所	所長	700-8546	岡山市鹿田町1-1-1	086-803-1262	086-803-1758	katsumi_nakase@city.okayama.okayama.jp
長野 秀樹	北海道立衛生研究所	主任研究員	060-0819	札幌市北区北19条西12丁目	011-747-2764	011-736-9476	nagano@iph.pref.hokkaido.jp
日野 学	日本赤十字社 血液事業本部	副本部長	135-8521	江東区辰巳2-1-67	03-5534-7503	03-5534-3774	s-hino@bs.jrc.or.jp
前田 憲昭	医療法人社団皓歯会	理事長	530-0017	大阪市北区角田町8-47 阪急グランドビル22階	06-6315-7500	06-6315-1930	koshikai@silver.ocn.ne.jp
矢永由里子	慶應義塾大学 医学部 感染制御センター	特任助教	160-8582	新宿区信濃町35	03-3353-1211		yanaga@ar.em-net.ne.jp

HIV検査相談体制研究班事務局 <慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室>

〒160-8582 新宿区信濃町35 TEL: 03-3353-1211 FAX: 03-5361-7658

事務担当(内線61230): 平山由香利 (kensahan@m10.alpha-net.ne.jp) / 経理担当(内線64021): 光永明弘

研究担当(内線61230): 須藤弘二 (phai@mail7.alpha-net.ne.jp)、親泊あいみ

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(地方衛生研究所)平成23年度

班員名	所属	職名	電話(内線)	FAX	所属	研究担当者	Eメール
長野 秀樹	北海道立衛生研究所	主幹	011-747-2764	011-747-2757	感染症部 ウイルスグループ	三好正浩 駒込理佳	nagano@iph.pref.hokkaido.jp
管野富士雄	仙台市衛生研究所	所長	022-236-7722	022-236-8601	微生物課	勝見正道	fuk005620@city.sendai.jp
原 孝	茨城県衛生研究所	部長	029-241-6652	029-243-9550	ウイルス部	増子京子	t.hara@pref.ibaraki.lg.jp
涌井 拓	千葉県衛生研究所	研究員	043-266-6725	043-265-5544	ウイルス研究室	福嶋得忍	twakui@nih.go.jp
内田 和江	埼玉県衛生研究所	専門研究員	048-853-4995	048-840-1041	ウィルス担当	篠原美千代 島田慎一	uchida.kazue@pref.saitama.lg.jp
貞升 健志	東京都健康安全研究センター 微生物部	病原細菌 研究科長	03-3363-3231 (3201)	03-3363-3263	微生物部 ウイルス研究科	長島真美	Kenji_Sadamasu@member.metro.tokyo.jp
近藤真規子	神奈川県衛生研究所	主任研究員	0467-83-4400	0467-83-4457	微生物部	佐野貴子	kondo.dvqy@pref.kanagawa.jp
宇宿 秀三	横浜市衛生研究所	専門研究員	045-754-9800	045-754-2210	検査研究課	折井まさ江	sh00-usuku@city.yokohama.jp
飯塚 郁夫	川崎市衛生研究所	技術職員	044-244-5481	044-246-2606	微生物担当	清水英明	35eiken@city.kawasaki.jp
村松克彦	山梨県衛生環境研究所	所長	055-253-6721	055-253-5637	微生物部	大沼正行 三橋加世子	oonuma-zsh@pref.yamanashi.lg.jp
皆川 洋子	愛知県衛生研究所	所長	052-910-5604	052-913-3641	生物学部 ウイルス研究室	小林慎一 藤原範子	hiroko_minagawa@pref.aichi.lg.jp eiseiken@pref.aichi.lg.jp
川畑 拓也	大阪府立公衆衛生研究所 感染症部ウイルス課	主任研究員	06-6972-1321 (376)	06-6972-2393	感染症部 ウイルス課	森 治代 小島洋子	kawahata@iph.pref.osaka.jp
近平 雅嗣	兵庫県立健康生活科学研究所 健康科学研究センター	感染症部長	078-511-6804	078-531-7080	感染症部	高井伝仕	Denshi_Takai01@pref.hyogo.lg.jp Masatsugu_Chikahira@pref.hyogo.lg.jp
伊藤 文明	広島市衛生研究所	専門員	082-277-6998	082-277-0410	生物科学部	阿部勝彦	ei-seibutsu@city.hiroshima.jp
山下 育孝	愛媛県立衛生環境研究所	ウイルス科長	089-931-8757	089-947-1262	微生物試験室	青木里美	yamashita-yasutaka@pref.ehime.jp
千々和勝己	福岡県保健環境研究所	保健科学部長	092-921-9940	092-928-1203	ウイルス課	世良暢之 石橋哲也 吉富秀亮 前田詠里子	chijiwa@fihes.pref.fukuoka.jp

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(特別協力研究者) 平成23年度

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
高山 義浩	佐久総合病院総合診療科 厚生労働省健康局結核感染症課	医師	384-0301	長野県佐久市臼田197	0267-82-3131	0267-82-2992	hiro-t@umin.net
小池 宙	佐久総合病院 総合診療科	医師	384-0301	長野県佐久市臼田197	0267-82-3131	0267-82-2992	koike-h@umin.ac.jp
百瀬 俊也	日本赤十字社 血液事業本部	安全管理課長	135-8521	江東区辰巳2-1-67	03-5534-7503	03-5534-3774	momose@bs.jrc.or.jp
本間 隆之	山梨県立大学 看護学部	講師	400-0062	山梨県甲府市池田1-6-1	055-253-7780	055-253-7781	
相楽 裕子	横浜市立市民病院 感染症内科	非常勤	240-8555	横浜市保土ヶ谷区岡沢町56	045-331-1961	045-331-1960	hsagara@msf.biglobe.ne.jp
岩室 紳也	(社)地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター	センター長	102-0093	千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15F	03-5210-2921	03-5210-2924	shin.iwamuro@nifty.ne.jp
伊藤 章	国際医療福祉大学病院 臨床検査部	教授	329-2763	栃木県那須塩原市井口537-3	0287-39-3060	0287-39-3001	aito@iuhw.ac.jp
大林 民典	東京都立駒込病院 臨床検査科	部長	113-8677	文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101	03-5814-3366	tami@cick.jp
小泉 京子	江戸川区 健康部 健康サービス課 なぎさ健康サポートセンター	保健師	134-0085	江戸川区南葛西7-1-27	03-5675-2515	03-5675-2519	kyouko-koizumi@city.edogawa.tokyo.jp
清水 茂徳	ライフ・エイズ・プロジェクト	代表	100-8691	東京中央郵便局私書箱490号	03-5685-9716	03-5685-9703	shimizu8691@lap.jp
草田 央	ライフ・エイズ・プロジェクト	スタッフ	100-8691	東京中央郵便局私書箱490号	03-5685-9716	03-5685-9703	aids@t3.rim.or.jp
堀 成美	東京都立駒込病院 感染症科 国立感染症研究所FETP 聖路加看護大学	研究員	162-8640	新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所	03-5285-1111	03-5285-1233	hnarumi@nih.go.jp
右田麻里子	特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター	栄サンサンサイト 事務局代表	466-0833	名古屋市昭和区隼人町7-16 セントカーサ50-B	052-831-2290	052-831-2268	chubu@npo-jhc.com
狩野 千草	新宿区牛込保健センター	保健師	162-6231	新宿区弁天町50番地	03-3260-6231	03-3260-6223	chigusa.kano@city.shinjuku.tokyo.jp
川添 昌之	特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター	理事 なんばサンサンサ イト事務局責任者	651-0088	神戸市中央区小野柄通6-1-22 プチメゾン小川 201号	078-222-3001	078-222-3001	osaka-vct@npo-jhc.com
高田知恵子	秋田大学教育文化学部心理学研究室	教授	010-8502	秋田市手形学園町1-1	018-889-2537	018-889-2537	takata@ed.akita-u.ac.jp
塚田 三夫	栃木県県北健康福祉センター 地域保健部	部長	320-8501	栃木県大田原市住吉町2-14-9	0287-22-2257	0287-23-6980	tsukadam01@pref.tochigi.lg.jp

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
一色 ミユキ	栃木県東健康福祉センター 健康対策課	課長	321-4305	栃木県真岡市荒町2-15-10	0285-82-3323	0285-83-7003	isshikim01@pref.tochigi.lg.jp
松浦 基夫	特定非営利活動法人 CHARM	理事	530-0031	大阪市北区菅栄町10-19	06-6354-5901	06-6354-5902	office@charmjapan.com matsuura-m@sakai-hospital.jp
岳中 美江	特定非営利活動法人 CHARM エイズ予防財団	理事 流動研究員	530-0031	大阪市北区菅栄町10-19	06-6354-5901	06-6354-5902	office@charmjapan.com
辻 麻理子	国立病院機構九州医療センター 感染症対策室	臨床心理士	810-8563	福岡市中央区地行浜1-8-1	092-852-0700	092-847-8801	cptsujimari@kyumed.jp
星野 慎二	かながわレインボーセンターSHIP (横浜Cruiseネットワーク)	代表	221-0834	横浜市神奈川区台町14-2 ピレア台町2F	045-306-6769	045-306-6769	shinji@y-cru.com
市川 誠一	名古屋市立大学大学院看護学研究科	教授	467-8601	名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	052-853-8089	052-852-4641	yaichisei@yahoo.co.jp
浦尾 充子	千葉大学附属病院カウンセリング室	カウンセラー	260-0856	千葉市中央区亥鼻1-8-1	043-226-2383	043-226-2295	urao@pbh.med.kyoto-u.ac.jp
鬼塚 直樹	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 エイズ予防研究センター	専門官	94105	50 Beale Street, Suite 1200, San Francisco, CA USA	415-597-9375	415-597-8299	nonizuka@webjapan.us
橘 とも子	国立保健医療科学院 研究情報センター	情報デザイン室長 (兼)研究情報セン ター図書館サービス	351-0197	埼玉県和光市南2-3-6	048-458-6206	048-469-0326	ttomoko@niph.go.jp
澤畑 一樹	(株)三菱化学メディエンス 学術部	主事	174-8555	板橋区志村3丁目30番1号	03-5994-2196	03-5994-2931	sawahata-o@mui.biglobe.ne.jp
榎 佐和子	(株)エスアールエル 感染免疫部	部長	192-8535	八王子市小宮町51	0426-28-4083	0426-48-4041	enoki@srl.srl-inc.co.jp
生島 嗣	特定非営利活動法人 ふれいす東京	専任相談員	169-0075	東京都新宿区高田馬場 4-11-5 三幸ハイツ403	03-3361-8964	03-3361-8835	ikushima@ptkyo.com
井上 洋士	放送大学 生活と福祉	教授	261-8586	千葉市美浜区若葉2丁目11番地	043-276-5111	043-298-4153	yinoue@ouj.ac.jp
大木 幸子	杏林大学保健学部看護学科 地域看護学研究室	教授	181-8611	三鷹市新川6-20-2 看護・医学教育研究棟7階717号室	0422-47-5511	0422-47-5511	oki-s@ks.kyorin-u.ac.jp

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(特別研究協力者) 平成23年度

HIV即日検査協カクリニック

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
赤枝 恒雄	赤枝六本木診療所	院長	106-0046	港区元麻布3-1-30	03-3405-1388	03-3403-4680	akaeda@akaeda.com
新井 律夫	新井医院	院長	330-0062	さいたま市浦和区仲町 2-15-12	048-822-2030	048-822-8457	
井戸田一朗	しらかば診療所	院長	162-0065	新宿区住吉町8-28 B・STEPビル2F	03-5919-3127	03-5919-3137	itoda@shirakaba-clinic.jp
岩澤 晶彦	岩澤クリニック	院長	060-0061	札幌市中央区南1条西16丁目 レーベンビル2F	011-613-6000	011-613-3000	iwasawa@mb.snowman.ne.jp
上村 哲	上村病院	院長	904-0021	沖縄市胡屋1-6-2	098-938-1035	098-939-4206	uemurasatoshi40@gmail.com
江畑 貴文	文化村通りクリニック	院長	150-0043	渋谷区道玄坂2-25-10 小田原屋ビル4F	03-5459-4070	03-3780-7702	info@bunkamura.org
大里 和久	大里クリニック	院長	563-0027	池田市上池田1-8-13	072-753-2553	072-753-2553	docosato@hotmail.com
大原 宏樹	新宿山の手クリニック	院長	160-0021	新宿区歌舞伎町2-45-1 第5ライデンビル5F	0120-156-119	03-5291-1578	info@y-cn.jp
尾関 全彦	尾関皮膚泌尿器科	院長	135-0048	江東区門前仲町2-6-2 幸栄ビル3F	03-3630-1241	03-3630-1241	
小田島 純	新吉原診療所	院長	111-0031	台東区千束3-27-11	03-6802-3767	03-6802-3768	luehdorfia@aol.com
尾上 泰彦	宮本町中央診療所	院長	210-0004	川崎市川崎区宮本町4-1	044-211-6581	044-211-1972	onoye@dd.ij4u.or.jp
上村 茂仁	ウィメンズクリニック・かみむら	院長	700-0901	岡山市北区本町4-18 コア本町ビル3F	086-803-5338	086-803-5339	RXND4713@nifty.com
川嶋 敏文	川嶋泌尿器・皮膚科医院	院長	231-0024	横浜市中区吉浜町2-4 アクシス(Axis)元町 2F	045-662-1971	045-662-1974	dr.toshitoshi@triton.ocn.ne.jp
清滝 修二	セントラルクリニック伊勢崎	院長	372-0023	群馬県伊勢崎市粕川町1050-1	0270-30-8113	0270-30-8116	isesakiyo@iris.ocn.ne.jp
小林 米幸	小林国際クリニック	院長	242-0005	大和市西鶴間3-5-6-110	046-263-1380	046-263-0919	uii37324@nifty.com
斎藤 敏典	クリニック斎藤泌尿器科	院長	983-0824	仙台市宮城野区鶴ヶ谷5-20-17	022-251-0170	022-251-0171	drs@f4.dion.ne.jp
鷺山 和幸	さぎやま泌尿器クリニック	院長	810-0001	福岡市中央区天神1丁目3-38 天神121ビル3F	092-720-3077	092-720-3078	uro@sagiyama.net

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
白川 裕一	八重洲山の手クリニック	院長	103-0027	中央区日本橋3-4-12 フロンティア八重洲ビル4F	0120-156-119	03-5205-3688	yaesu@y-cn.jp
高橋 雅弘	薬院高橋皮ふ科クリニック	院長	810-0022	福岡市中央区薬院1-5-11 薬院ヒルズビル2階	092-737-1881	092-737-2124	yakuin-clinic@momotaro-net.com
立山 啓悦	ひろクリニック	院長	150-0043	渋谷区道玄坂2-28-3 クラトスビル4F	03-5458-1860	03-5458-1860	hiro196779@yahoo.co.jp
谷口 恭	太融寺町谷口医院	院長	530-0051	大阪市北区太融寺町4-20 すてらめいとビル4F	06-4792-7877	06-6364-4188	cyc02414@nifty.com
多和田俊保	たわだ泌尿器科	院長	460-0011	名古屋市中区大須3丁目14-43 大須第2アメ横ビル3F	052-238-3555	052-238-3536	urotawada35@lime.ocn.ne.jp
中村 幸生	中村クリニック	院長	553-0003	大阪市福島区福島7-6-23-303 日の出ビル	06-6455-8755	06-6455-8755	email@nyukio.chicappa.jp
西大條文一	同仁齋クリニック	院長	186-0011	国立市谷保4111-1-2F	042-573-9995	042-576-2195	info@dojinsai.com
西原 仁	関内マリンクリニック	院長	231-0017	横浜市中区港町2-9-4 関内幸和ビル9F	045-222-6162	045-222-6225	info@kannai-marine.com
根岸 昌功	ねぎし内科診療所	院長	160-0004	新宿区四谷3-9 光明堂ビル5F	03-5369-2041	03-5359-2041	mneg2885@ever.ocn.ne.jp
古林 敬一	そねざき古林診療所	院長	530-0057	大阪市北区曾根崎2-5-24 石見ビル3F	06-6312-8423	06-6355-4822	k.furubayashi@sonezaki-fc.jp
保科 真二	保科医院	院長	604-8032	京都市中京区西木屋町六角 下ガル山崎町258	075-221-4775	075-221-4787	info@hoshina-iin.com
操 裕	操健康クリニック	医師	500-8384	岐阜市藪田南1-4-20	058-274-0330	058-273-4880	yumisao@docmisao.jp
山口 眞澄	池袋山の手クリニック	院長	170-0013	豊島区東池袋1-32-2 小川ビル4F	0120-156-119	03-3986-2977	ikebukuro@y-cn.jp
山中 晃	新宿東口クリニック	院長	160-0022	新宿区新宿3-17-5 カワセビル7F	03-5366-3389	03-5366-3398	kouy@ff.ij4u.or.jp
安田 晶子	吉尾医院	院長	064-0808	札幌市中央区南8条西3丁目1-7	011-511-5564	011-513-1782	teruko-yasuda@hokkaido.med.or.jp

総合研究報告書 (平成21～23年度)

目次

I. 総括研究報告

HIV 検査相談体制の充実と活用に関する研究	1
ー総括研究報告(平成21～23年度)ー	
加藤 真吾 (慶應義塾大学)	

II. 分担研究報告

1. HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査(H21- H23 年)	33
今井 光信 他 (田園調布学園大学)	
2. 検査相談 研修ガイドラインの作成と普及について ～研修ガイドラインの作成・普及と講師養成に関する研究～	66
矢永 由里子 他 (慶應義塾大学)	
3. 民間クリニックにおける HIV 検査相談機会を充実させるための研究	80
井戸田 一朗 (しらかば診療所)	
4. 平成20年以後の南新宿検査・相談室における HIV 感染者数の減少傾向	84
小島 弘敬 (東京都南新宿検査・相談室)	
5. HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (2009-2011 年)	89
須藤 弘二 他 (慶應義塾大学)	

6. 未承認 HIV 自己検査キットの信頼性と消費者に関する調査	104
木村 和子 他 (金沢大学大学院)	
7. 我が国および近隣諸国における HIV 分子疫学に対応する検査相談に関する研究: HIV 検査相談体制の充実拡充に資する最新の疫学・分子疫学情報の提供と その分析	198
武部 豊 (国立感染症研究所)	
8. ホームページ「HIV 検査・相談マップ」による HIV 検査相談機関の情報提供 および利用状況解析	205
佐野(嶋) 貴子 他 (神奈川県衛生研究所)	
9. 民間クリニックへの HIV 即日検査の導入支援および実施状況解析	223
佐野(嶋) 貴子 他 (神奈川県衛生研究所)	
10. 各種 HIV 検査法の評価と応用	235
佐野(嶋) 貴子 他 (神奈川県衛生研究所)	
11. HIV 検査に関する知識・態度・行動に関する研究 —医師および大学生を対象として—	250
玉城 英彦 他 (北海道大学大学院)	
12. 献血者への働きかけにより感染リスク行動のある献血者を HIV 検査相談機会に 繋げるための研究(平成 21-23 年度 3 年間まとめ)	260
日野 学 他 (日本赤十字社)	
13. 歯科受信対する検査相談機会検討3年間報告	264
前田 憲昭 他 (医療法人社団皓歯会)	
14. パートナー健診の検討	266
中瀬 克己 他 (岡山市保健所)	

15. 2009～2011 年の北海道における HIV 即日検査	272
長野 秀樹 他 (北海道立衛生研究所)	
16. 東京都の HIV 検査体制と検査結果の解析(2009～2011 年)	281
貞升 健志 他 (東京都健康安全研究センター)	
17. 大阪府内の公的 HIV 検査体制の現状解析、当所における HIV 陽性検体の解析、 STI 関連診療所における血清疫学調査と、各年度のトピック (2009 年:保健所等無料匿名検査における受検者数の減少) (2010 年:公的 HIV 検査の有効性を測る指標の検討) (2011 年:府保健所における即日検査導入の効果評価)	288
川畑 拓也 他 (大阪府立公衆衛生研究所)	
18. 福岡県における HIV 検査について	304
千々和 勝己 他 (福岡県保健環境研究所)	
19. 新しく開発した汎用リアルタイム PCR 装置を用いた HIV-1RNA 定量法(KK-TaqMan)の地 方衛生研究所への技術支援及び市販の HIV-1RNA 定量法(コバス TaqMan HIV-1ver.1.0) の問題点の解明と KK-TaqMan の有用性(3 年間のまとめ)	311
近藤 真規子 他 (神奈川県衛生研究所)	
20. 薬剤耐性変異の解析法の開発・改良・技術研修に関する研究: 薬剤耐性検査の実用化と衛生研究所等への技術移管	337
杉浦 互 他 (国立病院機構名古屋医療センター)	

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表	351
----------------	-----

I . 総括研究報告

HIV 検査相談体制の充実と活用に関する研究

総括研究報告

研究代表者	加藤真吾	慶應義塾大学医学部
研究分担者	今井光信	田園調布大学人間福祉学部
	武部 豊	国立感染症研究所ウイルス部
	中瀬克己	岡山市保健所
	長野秀樹	北海道立衛生研究所
	貞升健志	東京都健康安全研究センター
	川畑拓也	大阪府立公衆衛生研究所
	小島弘敬	東京都南新宿検査・相談室
	上木隆人	東京都南新宿検査・相談室
	日野 学	日本赤十字社血液事業本部
	前田憲昭	医療法人社団皓歯会
	玉城英彦	北海道大学大学院医学研究科国際保健医学
	木村和子	金沢大学医薬保健研究域薬学系
	矢永由里子	慶應義塾大学医学部
	松浦基夫	特定非営利活動法人 CHARM
	佐野貴子	神奈川県衛生研究所
	近藤真規子	神奈川県衛生研究所
	井戸田一朗	しらかば診療所
	杉浦 互	国立病院機構名古屋医療センター

研究要旨

本研究班は、HIV 検査相談体制を充実させ、その機会を活用することにより、HIV 感染者の早期発見・早期治療と感染予防・まん延防止を図ることを目的に、(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究、(2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究、(3) HIV 検査技術の向上に関する研究の3課題について研究を行った。

(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究

①保健所等における HIV 検査相談に関するアンケート調査

保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、その充実を図るため、全国の保健所等検査相談施設を対象にアンケート調査を実施した。

②各地域における HIV 検査相談体制の現状と課題

北海道、東京、大阪、福岡における HIV 検査相談体制を現状と課題を地方衛生研究所における検査結果と疫学データを基に分析した。

③東京都南新宿検査・相談室における HIV 検査相談の動向

- 東京都南新宿検査・相談室における陽性者数の動向と受検者の行動変容を調査した。
- ④HIV 検査相談の研修ガイドラインの作成と普及
検査相談の研修ガイドラインの完成、講師の養成、地域研修の実践を行った。
 - ⑤民間クリニックにおける HIV 即日検査
民間クリニックにおける HIV 即日検査の導入支援と実施状況の調査を行った。
 - ⑥HIV 自己検査キットの検討
未承認 HIV 自己検査キットの信頼性と消費者に関する調査を行った。
 - ⑦HIV 郵送検査の実態と検査精度に関する調査
郵送検査会社に対し取扱状況や検査実施状況に関するアンケート調査を行った。また、スクリーニング陽性検体を再検査することにより検査精度を調査した。
 - ⑧我が国及び近隣諸国における HIV 分子疫学
我が国の HIV 検査相談体制の充実拡充に資するため、近隣諸国における最新の疫学・分子疫学情報を分析した。
- (2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究
- ①ホームページ「HIV 検査・相談マップ」の活用
保健所等 HIV 検査機関における HIV 検査情報の提供や HIV 検査に関する知識の普及を目的にホームページ「HIV 検査・相談マップ」の管理・運営を行った。また、本サイトによる HIV 検査情報提供の効果を調査するため、アクセス数を解析した
 - ②STI クリニックにおける HIV 検査相談機会の提供
STI クリニックにおいて HIV 検査相談を提供する場合の障壁を調査するとともに HIV 即日検査導入のためのガイダンスを作成した。
 - ③HIV 検査に関する意識調査
HIV 検査に関する知識・態度・行動について、医師や一般の若年層の実態を把握するための調査研究を行った。
 - ④献血者への働きかけ
感染リスクのある献血者に働きかけて HIV 検査相談機会に繋げるための方策の有効性を陽性献血者のデータを基に検討した。
 - ⑤歯科受診者に対する検査相談機会の提供
歯科受診が HIV 感染症の早期診断に繋がることを歯科医療従者と歯科医療機関受診者に啓発するための方策とツール作成に取り組んだ。
 - ⑥パートナー健診
医療機関におけるパートナー検査勧奨のための支援方策を検討した。
- (3) HIV 検査技術の向上に関する研究
- ①各種 HIV 検査法の評価と応用
抗 HIV 抗体量により感染時期を推定するための検査法を検討した。また、国内で利用可能な 2 種類 HIV 迅速検査試薬の比較性能評価を行った。
 - ②HIV RNA 定量法の検討と国内のサブタイプ頻度の分析
研究班が開発した HIV-1 RNA 定量法を地方衛生研究所に普及させた。コバス TaqMan が低値になる原因を明らかにした。また、日本人男性における CRF01_AE 及びその組換え体の顕著な増加を示した。
 - ③HIV 検査技術の研修
HIV 薬剤耐性検査法の開発・改良に取り組むとともに、地方衛生研究所等の HIV-1 検査担当者を対象に薬剤耐性検査法や血清学的診断法などの技術研修会を開催した。

A. 研究目的

本研究班は、HIV 検査相談体制を充実させ、その機会を活用することにより、HIV 感染者の早期発見・早期治療と感染予防・まん延防止を図ることを目的に、(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究、(2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究、(3) HIV 検査技術の向上に関する研究の3課題について研究を行った。

B. 研究成果

(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究

①保健所等における HIV 検査相談に関するアンケート調査

保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、その充実を図るため、全国の保健所等検査相談施設を対象にアンケート調査を実施した。

対象施設の80%以上(H21年;80%,H22年;83%,H23年;82%)から回答を得ることができた。H21年には97,166件、H22年には89,997件、H23年には84,404件の検査が行われ、各年の陽性数と陽性率はそれぞれ234(0.24%)、241(0.27%)、220(0.26%)であった。そのうち223(95%)、214(89%)、206(94%)が結果を受け取っており、そのうちの176(75%)、176(73%)、146(67%)はその後医療機関に受診していることが確認された。感染症法に基づく届出は、186(80%)、191件(79%)、166件(76%)が自施設から行われていた。即日検査を実施した保健所は、61%、63%、67%と徐々に増加していた。また、土日夜間検査についても、43%、48%、50%と徐々に増加していた。

保健所以外の特設検査相談施設では、各年の対象検査相談施設数・検査数・陽性数・陽性率は、17か所、23,702、142(0.6%);19か所、22,894、163(0.7%);18か所、26,207、167(0.6%)であった。

検査結果の誤通知は平成22年に1件、平成23年に3件の報告があった。誤通知防止のためには、システム全体の見直しとともに、一人一人のより注意深い対応が求められており、研究班としてもマニュアルの改訂等も含め、検査相談体制の充実にさらに努めていく必要があることが分かった。(分担研究報告「HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査(H21年-H23年)」今井光信、他)

②各地域における HIV 検査相談体制の現状と課題

北海道における2009~2011年の新規 HIV 感染者・エイズ患者は、それぞれ34、21、29名であった。エイズ患者の割合は29、24、35%となり、ほぼ全国平均程度のレベルであった。感染経路別では同性間性的接触が最も多く、年齢構成については30歳代が多かった。この3年間において道立保健所の HIV 検査で陽性が判明したのは4名であり、全例サブタイプ B であった。(分担研究報告「2009~2011年の北海道における HIV 即日検査」長野秀樹、他)

東京都内保健所および南新宿検査・相談室より東京都健康安全研究センターに通常検査として依頼された HIV 検査実績数の推移を、2009年~2011年を中心に分析した。その結果、2011年末で新型インフルエンザや東日本大震災の影響から脱しつつあること、20歳代では新型インフルエンザ後の回復が遅く、30歳代では震災後の回復がやや遅い傾向があったことが示唆された。(分担研究報告「東京都の HIV 検査体制と検査結果の解析(2009~2011年)」貞升健志、他)

2009年から2011年の各年に、大阪府内の保健所等公的検査機関で HIV 検査を受検した人数はそれぞれ18,388名、14,528名、15,124名であり、2008年以降の受検者数の減少が2011年になって歯止めがかかった。サブタイプは大部分が B で、それ以外の場合は、本人が外国人、またはパートナーが外国人である割合が高かった。繁華街に隣接した STI 関連

診療所での HIV 感染のモニタリングでは、3 年間に合計 1711 件の検査を行い、HIV 陽性例は 56 例であった(3.3%)。そのうち、5 例はウインドウ期の検体であった。発生動向届出数に占める無料匿名 HIV 検査陽性件数の割合が、都道府県における公的な HIV 検査が有効に機能しているかどうかを示す指標となる可能性が示唆された。2011 年 6 月、大阪府内の保健所 4 ヶ所に即日検査を導入した。その結果、これらの保健所で受検者数が 2〜3 倍に増加した。即日検査導入が受検者数の増大に寄与することが再確認された。(分担研究報告「大阪府内の公的 HIV 検査体制の現状解析、当所における HIV 陽性検体の解析、STI 関連診療所における血清疫学調査と各年度のトピック(2009 年:保健所等無料匿名検査における受検者数の減少)(2010 年:公的 HIV 検査の有効性を測る指標の検討)(2011 年:府保健所における即日検査導入の効果評価)」川畑拓也、他)

福岡県内では、2011 年の HIV 感染者・患者報告数は 59 人で、2008 年以来の増加傾向が続いている一方、保健所及び民間クリニックでの検査数は減少している。今後、保健所等での検査数を増加させる努力が必要である。(分担研究報告「福岡県における HIV 検査について」千々和勝己、他)

③東京都南新宿検査・相談室における HIV 検査相談の動向

男性同性間性的接触による HIV 感染リスクを周知させることが HIV 感染拡大の抑制のため最も有効な方法と考えられる。(分担研究報告「平成 20 年以後の南新宿検査・相談室における HIV 感染者数の減少傾向」小島弘敬、他)

④HIV 検査相談の研修ガイドラインの作成と普及

全国各地で、検査相談の人材が育成され、相談時の対応の質が担保され、その対応によって受検者の検査相談の経験が HIV 感染予防

に繋がることを目標に、検査相談の研修ガイドラインの完成、講師の養成、地域研修の実践を行った。ガイドラインの内容は検査相談担当者の育成に適切であるという検証結果が得られた。最終年度には、ガイドラインの内容の理解促進や広報と、研修時の活用資料の目的を兼ねて、基本編・実践基礎編の内容のダイジェスト版を作成した。今後は、医療機関の担当者も含めた研修のあり方、その先の、医療と行政の連携に結びつくような研修についても、検討を加え、実践を展開していきたい。(分担研究報告「研修ガイドラインの作成・普及と講師養成に関する研究」矢永由里子、他)

⑤民間クリニックにおける即日 HIV 検査

HIV 検査希望者にとって利便性が高い検査相談体制の一つである「即日検査」について、民間クリニックへの導入支援を行うとともに、実施施設における検査数、陽性数等の動向を調査した。

2009 年〜2011 年で 8 箇所が新たに研究協力クリニックとなり、計 32 箇所となった。検査数は、2009 年から 2011 年でほぼ横ばいであり、最も件数が多かった 2008 年と比較すると 2011 年は 18%減であった。また、陽性数は 2009 年、2010 年は検査数に対して陽性数は増加傾向であったが、2011 年は陽性数も減少し、陽性率も 2008 年レベルに低下した。陽性例 302 例中 286 例(95%)が確認検査結果の受け取りに来ており、また、確認検査を受け取った人の 91%はその後の経過もフォローされていた。民間クリニックは有料であるにも関わらず、医療機関という安心感や場所・受付時間帯の利便性等から、多くの検査希望者が即日検査を受検している。また、STI クリニックは他の性感染症の罹患者が多く来院することから、HIV の早期発見・早期治療に繋げるためには、民間クリニックでの即日検査の実施は非常に効果的であると思われる。(分担研究報告「民間クリニックへの HIV 即日検

査の導入支援および実施状況解析」佐野貴子、他)

⑥HIV 自己検査キットの検討

海外から容易に入手可能な本邦未承認の HIV 自己検査キットについて、消費者の入手状況とその意識調査、キットの試買調査などを行った。その結果、消費者の HIV 感染とキット使用に関する知識の不足と公的な検査に対する匿名性と手間の問題が自己検査キットを購入する動機であることが確認された。また、キットの流通経路、信頼性、フォローアップ体制などに問題であることが判明した。少なくとも現段階ではインターネットで入手できる自己検査キットの使用は推奨できない。(分担研究報告「未承認 HIV 自己検査キットの信頼性と消費者に関する調査」木村和子、他)

⑦HIV 郵送検査の実態と検査精度に関する調査

インターネット等で利用可能な HIV 郵送検査の現状を把握するため、2009 年から 2011 年にかけて郵送検査会社 10 社に対し取扱状況や検査実施状況に関するアンケート調査を行った。

年間検査数は、2009 年が 54384 件、2010 年が 60609 件、2011 年が 65640 件であった。スクリーニング検査陽性数はそれぞれ 192 例、223 例、209 例であった。HIV 検査の受検費用は 2625～7950 円で、検査にかかる日数は検体の受け取りから 1～14 日であった。検査検体は全血を濾紙や採血管で保存したものを用いており、PA 法、イムノクロマト法、CLEIA 法、EIA 法の臨床検査キットで検査を行っていた。検査結果は郵送での通知に加えて E-mail やネットでの通知が選択できる会社が多く、検査結果が陽性だった場合、ほとんどの検査会社で病院または保健所での検査をすすめていた。郵送検査でスクリーニング検査が陽性であった検体 75 例を PA 法と WB 法で再検査した結果、陽性 64 例、陰性 8 例、判定保留 3 例で

あった。すなわち郵送検査の陽性的中率は 85%であった。HIV 郵送検査は我が国の自発検査において大きな部分を占めており、今後も実態調査と検査精度調査を継続することが重要であると考えられる。(分担研究報告「HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査(2009-2011 年)」須藤弘二、他)

⑧我が国及び近隣諸国における HIV 分子疫学

我が国の HIV 検査体制・検査相談に資する研究の一環として、東アジア地域におけるエイズ流行の現状とその分子疫学的特徴に関して、最新の研究調査情報をもとに比較・分析を進めた。我が国の MSM 流行は、強力なファウンダー効果により欧米型パンディック B 株が圧倒的に優位であるが、東南・東アジア地域の MSM 流行全体に共通する新規動向として、タイに起源をもつ CRF01_AE 株の重要性が急速に増大し始めている。中国では、特定リスク集団にはじまった流行(例えば、不法買血によるプラズマ供血経験者での感染爆発)が異性間性感染のルートを介して急速に一般集団へと波及し始めている。今後、国内における分子疫学的サーベイランスを強化する必要あると考えられる。(分担研究報告「我が国および近隣諸国における HIV 分子疫学に対応する検査相談に関する研究：HIV 検査相談体制の充実拡充に資する最新の疫学・分子疫学情報の提供とその分析」武部豊)

(2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究

①ホームページ「HIV 検査・相談マップ」の活用

保健所等 HIV 検査機関における HIV 検査情報の提供や HIV 検査に関する知識の普及を目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」の管理・運営を行った。2009 年度はサイトのリニューアルと行い、内容の充実を図った。2010 年度はリニューアルに伴う不具合の改善を図り、2011 年度はこれまで未掲載であ

った自治体 20 県の保健所等検査情報の掲載を完了した。また、本サイトによる HIV 検査情報提供の効果を調査するため、PC 版及び携帯電話版のページアクセス数を解析した。

PC 版サイトの 2009 年から 2011 年の年間アクセス数は 63 万件、61 万件、62 万件とほぼ横ばいで、最もアクセス数の多かった 2008 年と比較すると約 3 割の減少であった。アクセス数減少の要因として、新型インフルエンザ流行による HIV/エイズ情報への関心の低下、リニューアルの際に情報更新の停止、東日本大震災の影響が考えられる。2011 年の PC 版サイトのアクセス数のうち約 23% はスマートフォンからのアクセスと推定された。今後、スマートフォンの普及はさらに進むと予想され、若年層の所有率が高いことから、より利用しやすいスマートフォン版サイトを作成する必要があると思われる。(分担研究報告「ホームページ「HIV 検査・相談マップ」による HIV 検査相談機関の情報提供およびサイト利用状況解析」佐野貴子、他)

②STI クリニックにおける HIV 検査相談機会の提供

民間クリニックにおける HIV 検査を拡大することは重要だ。民間クリニックの実情に合わせた HIV 検査のスタンダードを確立しガイドランスを作成する目的で、性感染症を取り扱う 11 施設を対象に訪問インタビュー調査を行った。

性感染症の診断時に自施設で HIV 検査を勧めると回答した施設は限られ、その理由として、(1)患者間での不公平が生じる、(2)営利目的と取られる、(2)陽性が出た場合の風評、(4)医療側から HIV 検査を切り出しにくいなどの意見があがった。民間クリニックの実情に応じた、HIV 即日検査の導入実施を支援するガイドランス「開業医だからこそできる HIV 即日検査」を開発・制作した。(分担研究報告「民間クリニックにおける HIV 検査相談機会を充実させるための研究」井戸田一朗、他)

③HIV 検査に関する意識調査

HIV 検査に関する知識・態度・行動 (KAP) について、医師や一般の若年層の実態を把握し、HIV 検査相談体制の充実および HIV 検査の受検率の向上に寄与する基礎資料を得ることを目的に、エイズ治療の一地方ブロック拠点病院における外来医師の HIV 検査に対する意識の把握と、中学生、高校生および大学生における、HIV を含む性感染症の知識の程度と HIV 検査に対する態度との関連性の検討を行った。外来医師の約 6 割は、HIV 検査の対象範囲について、手術前や輸血前後の感染症検査のひとつとして実施している現行の検査体制で良いと考えていた。中学生、高校生、大学生の「知識レベル」と「HIV 検査を受けようと思うか」という検査意欲には、いずれも有意な関係が見られた。大学生において、検査を受けたい理由としてもっとも多かったのは、「健康チェックの一環として」(63.3%)であった。また、「病院・クリニックを受診した時」では全体の半数以上が受検したいと回答した。

わが国における HIV 検査受検率を向上させるためには、MSM などの個別層に対する継続的な予防啓発活動に加えて、性的に活発な若年層全体に対して、検査の位置づけを再考したうえで、検査環境を整えることが重要であると考えられる。(分担研究報告「HIV 検査に関する知識・態度・行動に関する研究—医師および大学生を対象として—」玉城英彦、他)

④献血者への働きかけ

日本赤十字社では 2008 年に感染症検査の精度および感度の向上のために、血清学的検査を凝集法から化学発光酵素免疫法へ、また HBV、HCV および HIV のミニプール核酸増幅検査については、HIV-1 に加えて HIV-2 も検出可能とするとともに精度・感度を向上させた試薬を導入している。献血者 10 万人当りの陽性率については、2008 年をピークに 2009 年 1.929 件、2010 年 1.617 件、2011 年 1.695 件

と減少傾向となった。地域ブロック別では、東京ブロック(2.405、2.076、2.017)及び大阪ブロック(2.35、2.509、2.634)は依然として高い陽性率であり、愛知ブロック(1.265、0.501、0.874)、福岡ブロック(1.630、1.298、1.856)では減少と増加を繰り返している。都道府県別では、2011年、大阪府の4.053と東京都の3.089が断然高かった。平成23年4月にHIV等の感染リスクに関連した問診事項として、性的接触の対象に「新たな異性」を含めるなど問診票改定が行われたこともあり該当者数が改定前と比較して4倍程度に急増したことから、感染リスクの減少に効果が期待された。(分担研究報告「献血者への働きかけにより感染リスク行動のある献血者をHIV検査相談機会に繋げるための研究(平成21-23年度3年間まとめ)」日野学、他)

⑤歯科受診者に対する検査相談機会の提供
口腔症状がHIV感染症の発見の機会になった症例を解析することで、歯科診療機関が、疾患のスクリーニング機能を果たすことを確認した。また、歯科医療従事者が、歯科受診する患者の口腔粘膜の観察を通じて、免疫の異常の兆候を早期に感知し、検査・相談機関への紹介に至るための環境を開発するため、手引書、ポスターとその運用テキストなどを作製し、歯科診療所、歯科医師会、大学歯科部などに配布した。(分担研究報告「歯科受診者に対する検査相談機会の検討3年間報告」前田憲昭、他)

⑥パートナー健診の検討

パートナー健診(検査等健康管理への働きかけ)はHIV感染の早期発見に寄与すると考えられる。HIV感染症診療の場および公設HIV検査・相談所におけるHIV検査陽性者および患者を発端としたパートナー健診の現状を調査し、わが国における意義と課題について検討を行った。

陽性経験のある保健所では2009年には83%(93/112)で、10年には75%(88/118)で、陽

性経験のある公設検査相談所では2009年には64%(9/14)でパートナー健診が勧奨されていた。学会シンポジウムでの討論では、パートナー健診に関し、診療担当者からは具体的な支援策の要望が、患者支援団等からは患者の不利益に関する懸念が表明された。具体的支援策について、パートナー健診を行う医療者が経験している課題、今後導入を考えている診療スタッフが考えている課題の整理を行うとともに、米国やオーストラリアでの、パートナー健診を含めたHIV検査前の説明資料なども参考に検討した。(分担研究報告「パートナー健診の検討」中瀬克己、他)

(3) HIV検査技術の向上に関する研究

①各種HIV検査法の評価と応用

米国で感染時期推定のために開発されたBED法の検証を行うとともに、PA法で測定した抗体価が感染時期推定の指標となるかどうかを検討した。BED法のODn値が0.8の時、抗体陽転からの日数は平均159日となった。PA法では、抗体価が1000倍の時は抗体陽転からの日数は平均46日、10000倍では平均106日となった。10000倍未満は23.9%となった。BED法(0.8以下)は感染後5-6ヶ月以内を示す指標として、また、PA法の1000倍未満は、感染後1.5-2.5ヶ月以内を示す指標として有効であると考えられた。

国内で使用可能な2試薬(ダイナスクリーン・HIV-1/2、エスプライン HIV Ag/Ab)について性能の再検討を行うとともに、追加検査試薬の検討を行った。感度はダイナスクリーン、エスプラインともに100%、特異性は、ダイナスクリーンは99.7%、エスプラインは99.6~100%であった。迅速検査試薬及び追加検査試薬の感染初期検出感度を比較したところ、バイダスDUOⅡがもっとも早く、次にエスプライン、ジェネディアPA、ダイナスクリーンの順であった。今回の結果から、ダイナスクリーンを使用した場合の追加検査試薬としてジェネディアPA、バイダスDUOⅡ及びエ

スプラインが、エスプラインの場合はバイダス DUO II が使用可能と思われた。(分担研究報告「各種 HIV 検査法の評価と応用 ①抗 HIV 抗体量により感染時期を推定するための検査法の検討 ②HIV 迅速検査試薬の検討および即日検査への応用」佐野貴子、他)

②HIV RNA 定量法の検討と国内のサブタイプ頻度の分析

血中 HIV-1 RNA 測定は保健所等の無料匿名検査での確認検査においても重要な検査の一つである。確認検査の多くは地方衛生研究所で行われているが、HIV-1RNA 測定キットがリアルタイム PCR を原理とするコバス TaqMan 法へ切り替わったことに伴い、高価な専用機器の購入が必要になり、全国の地方衛生研究所での実施が困難になった。そこで、本研究班で開発した、汎用リアルタイム装置を用いた in house の HIV-1RNA 測定法(以下、KK-TaqMan)を開発し、全国地方衛生研究所への技術移管を進めた。

一方、コバス TaqMan に低反応性の症例があることが発見されたため、その原因が点変異にあることを明らかにした。また、KK-TaqMan 法ではこのような問題が起こらないことを示した。

一方、国内で流行する HIV-1 サブタイプを調べるため、HIV-1 感染者 161 例についてサブタイプ解析を行った結果、日本人 MSM における HIV 流行に従来のサブタイプ B と異なるサブタイプが新たに侵入した可能性が示唆された。(分担研究報告「新しく開発した汎用リアルタイム PCR 装置を用いた HIV-1RNA 定量法(KK-TaqMan)の地方衛生研究所への技術支援及び市販の HIV-1RNA 定量法(コバス TaqMan HIV-1ver. 1.0)の問題点の解明と KK-TaqMan の有用性(3年間のまとめ)」近藤真規子、他)

③HIV 検査技術の研修

全国の衛生研究所等において HIV-1 検査を担当する技術者を対象に、全国どこでも同質

の薬剤耐性 HIV 検査が実施可能となるように技術移管をすることを目的として、技術研修会を毎年名古屋医療センターで開催した。講義では国内の HIV 診断・研究に取りくむ研究機関より講師を招聘して HIV-1 の薬剤耐性検査に関する基礎知識から臨床的意義までを取り上げ、実習では薬剤耐性遺伝子検査と血清学的診断法について取り組んだ。研修会後の事後評価では実習・講義ともに受講者より高い評価を得た(分担研究報告「薬剤耐性変異の解析法の開発・改良・技術研修に関する研究：薬剤耐性検査の実用化と衛生研究所等への技術移管」杉浦 亘、他)

以上の研究成果の他、「保健所等における HIV 即日検査のガイドライン」を 5 年ぶりに改訂し、迅速 HIV 抗原抗体検査キットが新たに利用可能となったことにともなう HIV 検査実施プロトコールの変更、疫学データ等の更新、陽性告知に関する加筆などを行った。この改定にあたっては、生島嗣先生、井上洋二先生、大木幸子先生に新たに執筆陣に加わっていただいた。

C. 考察

保健所等における平成 23 年の検査件数は 13.1 万件であり、前年と比べてほとんど変わらなかったが、検査件数がピークであった平成 20 年の 17.7 万に比べ 26%も減少している(平成 23 年のデータは速報値。以下同じ。)。平成 21 年の新型インフルエンザ流行により生じた国民の HIV への関心の低下がその後も続いており、さらに東日本大震災の影響もあり、保健所等における HIV 検査数の減少したまま推移していると考えられる。この間、新規 HIV 感染者・エイズ患者に占めるエイズ患者数の割合が平成 20 年の 27.7 %から平成 23 年の 31.4%へと漸増している。このように HIV 感染の診断が遅れていることの要因の一つが、最近の HIV 検査件数の減少にある可能性が高い。今後とも、国及び都道府県等はマスメデ